

令和4年度 第2回香川県教育センター運営協議会 議事録

【日 時】 令和5年3月14日（火）10:00～11:30

【場 所】 香川県教育センター 4階第2中研修室

【出席者】 委員8名、教育センター所長外5名 ※傍聴人 なし

【議事概要】 令和4年度事業実施状況 及び 令和5年度事業計画について

【主な質疑応答】

① 調査研究事業について

委員	研究発表会の報告書の中に、高等学校の先生から「本校では来年度から1人1台端末となります」という感想があるのですが、高等学校では、本年度には1人1台端末の配付がほぼ行き渡るくらいなのでしょう。来年度からとなると、まだ配られていないのでしょうか？
事務局	各校に端末が配られたとしても、実際に使えるようになるまでに時間がかかっています。当センターでも現場の先生方の支援をしているのですが、大変そうです。
委員	端末は入っているんで、これから活用していこう、といったところでしょうか。
事務局	まだ生徒たちが実際に触れていないか、活用できていない状況です。
委員	今年度には全ての高等学校に1人1台端末が配られると聞いていたので、おそらく年度内には配付されると思うのですが、高瀬高校、観音寺総合高校、丸亀高校の3校については前年度から配付計画をしていたので、高瀬高校は3学年全員、観音寺総合高校と丸亀高校は1、2年生全員が端末を持っています。その3校については、実際に授業の中でどのように活用していくのかというのを、教員研修をしながら進めています。できれば、先進の3校で行っている授業を実際に見に行けるような機会を設けられたら良いのではないのでしょうか。先日の研究発表会の時に、県教育センターの情報教育担当の指導主事が学校の現場に行って、端末の使い方についてのアドバイスをしますよ、というお話を頂きました。県下の高校の先生方はきっと端末の使い方について悩まれていると思いますので、こういったことをもっと広めていただいて、各学校から視察に来ていただいた時にこの教科だったらこういう使い方できますよ、というアドバイスをいただき、更に活用できるようになればありがたいと思います。
事務局	ぜひ参加させていただければ幸いです。
委員	小中学校は自治体によって同じような端末が導入されていると思うのですが、中学校から高校へ進学すると、中に入っているソフト自体が各市町によって違っていたりするので、そのあたりの小中高の接続というのはどのようにお考えなのでしょうか。ソフトなどの使い勝手が違うとまたゼロからのスタートになるので、少し心配です。

事務局	学校支援アンケートで調査を行い、おかげさまで県内の小中高等学校の現状は分かってきたところです。学校によっては iPad の小さい画面で全部完結させていくところもあれば、かたや Windows のフルキーボード仕様で中に入っているソフトも違うというような状況ですので、先生方が人事異動になった途端に困っています。ロイロはないのか、学びポケットはどこにあるのか、スカイメニューはどこ？といった状況です。高等学校の方々には、Microsoft や Google のアカウントを用意しています。社会に出ればそちらの方をより使うようになりますし、クラウドだと端末の違いも吸収できます。今後、端末が導入する時期や導入者の判断によって変わってくる可能性があります。汎用的な ICT 能力、情報活用能力を高めていくことで、例えばアプリケーションがバージョンアップしたとしても、やりたい事を推進できないかということを、調査研究などを通して提案しているところです。実は、県教育センターの端末にはスカイメニューは入っていません。ですが、スカイメニューの利用方法の件で来てほしいと依頼され、伺った先で実際に触りながらこんなこともできます、忘れないようにして聞いておいてくださいねとアドバイスをするような状況です。来年度からは、デジタル教科書も導入されていく予定です。デジタル教科書は、教科書会社ごとに使い勝手が違います。マニュアルを見ながら実際のソフトの使い方を教えてもらうのではなく、ペンで描く機能はどこにあるのだろう？と自分で探して見つけ出していくような力を身につけていってほしいと思います。今後も研修サポートや研究報告などで、ご紹介をしていく予定です。
委員	先ほどお話いただいたように、導入しているソフトが高松市はスカイメニューで坂出市はロイロなので、香川大学の学生が教育実習で附属高松学園に行く場合はスカイメニューだ、附属坂出学園だとロイロだといった時に、大学側はどちらも使えるようにということで対応してきました。教員養成についても特に若い人たちは吸収率が早いので、ロイロでもスカイメニューでも Microsoft でも対応できるように指導していくというのが、大学側の大きな責任だと感じています。
委員	小中学校も、とにかく端末を使わなければいけないというところからワンランクアップして、どうすれば効果的な使い方ができるのかという段階に入っていると思います。端末の使い方について支援していくという調査研究については、内容も方向性についても良いと感じました。ただ、端末を使った授業を見ていると、字を書く能力がすごく弱くなってきたというか、書写能力の差が出てきているようで気になっています。義務教育の間は、しっかりと自分の考えを文章にして書けるような力も大事にしながら、今の時代に応じた力を身につけていってほしいです。最近では AI を使って文章を書いてもらうというものもありますが、そういったものをニュースで見えても、どうしても味気な

	さを感じますよね。自分らしさが出せる“書く力”というものを、いつの時代も大切にしていってもらいたいなと思っています。
委員	ICT も文房具のひとつと言われているので、ICT の良さを活かしながら、鉛筆の良さとの両輪でいくのが、バランスとしてもいいのではないのでしょうか。
委員	昨年度から高松市内の小学校でも端末を使っていますが、先ほどのお話にもありましたが、文房具として使っていきたいということで、現場においてもまずは慣れようと、どんどん使っていっていただきました。その後、授業でのより効果的な使い方について、どのようにすればよいかという課題も挙がってきています。子どもたちは端末を使ってすごく意欲的に学習に取り組んでいるのですが、端末は従来のように黒板を使ってノートに書くことよりも効果的であるのかどうなのか、また、端末を使って壁新聞や文章をつくってみるとなんとなく綺麗にできるので、子どもたちがそれはそれで満足しているんです。それをもう一歩進めていくと、今後はどこで端末を使うのがより効果的なのかを考えたいうえで、書く事と端末の両輪でどちらを使っていけばいいのかを研究していく必要がある、というのが現場にいる先生方の感想として出ています。今後県教育センターから具体的な活用方法の仕方をご提案いただけると、大変ありがたいと思っています。
事務局	場面に分けて研究分析をしております。どの場面で使うのが効果的か、それから目的、何のために ICT を活用するべきか、場面・目的・効果を提案し、先進的な研究成果をいただいているという状況です。私たちが弱い分野は普及でしょうか。研修サポート等では話ができていますが、皆さんにこんな分厚い報告書を熟読していただいているのかというと苦しいところもありますので、何か良いアイデアはないかと考えているところです。
委員	特別支援学校でもいろいろな支援ソフトを使って支援をしていますよね。
委員	一斉にというよりも、差別化していくというのが特別支援学校での端末の持ち方といいますか、ハンディキャップの部分については、その子がどうすれば自分でできるかというところに置き換えていきます。例えば1人ではコンパスを使えないけれど、クリックひとつで円を描けると、すごく喜びます。いつもは隣の先生に頼んで円を描いてもらっているのですが、分度器も出てきて、自分で目盛をあわせて測ることができる。やっぱり子どもって、自分でできたということが嬉しいということを、実際に使ってみるという、体験を通して改めて実感しました。自分でできる、自分でわかる、というのが本当に大事な点だと、学校現場では感じています。特別支援学校では、iPad を導入しています。使い勝手が断然良いとのことで導入したのですが、先日ある生徒の将来の進路について指導する機会がありました。パソコンを使う仕事で windows を使えることが条件とのことで、学校では1人1台 iPad を導入しているのですが、学校に

	置いてある Windows 端末を使って練習しています。ひとりの生徒の中でも日常生活や学びを豊かにしていくものと、生活していくためのツールは違うというのを、実際目の当たりにして感じたところです。子どもたちが実際の端末にお試して触ってみて遊べるような、自由に扱えるような時間が用意されていないと、教えられただけでは自分にとって有益なのかどうかもわかりませんし、その判断が難しいと感じています。難しいところの土台にあるのは、一人ひとりのニーズを教員がどれだけ開いていけるかということです。指導主事から他の学校の様子の報告いただき、また研修の機会にもご助言いただけるというのは、とてもありがたいなと思っています。個別化で先生方も悩みの状況ですが、ご家族の方も後押しをしてくださっているのです、ありがたく思っている所存です。
--	---

② 教職員研修事業について

委員	教職20年経験者研修の所に『熟練教員としての指導力の養成』とあるのですが、文科省の方でそのように決めているのか、それとも香川県教育委員会の方で、そのようにお考えになっているということなのでしょうか。
事務局	初任者研修と中堅教諭等資質向上研修は法定研修ですが、1年経験者研修や20年経験者研修は法定研修ではありません。他の県でもベテランの先生方の研修を行っています。
委員	私の勤務先では初任者研修と同様に、3年目、5年目、10年目までは研修がありますが、その後になると現場長や管理職のための職務研修になります。なぜ20年研修というのを設けているのでしょうか。受講後の評価は3.8ということなので、受講された方にとってはそれなりの意味があるのだとお考えなのでしょうが、20年研修には具体的にどのような効果があるのでしょうか？
事務局	40代半ばという、そろそろ管理職に近い年齢になってきますので、スクールリーダーとしての学校経営の観点も入れながらの研修となります。
委員	学校を俯瞰的に見るといった視点から管理者としての心構えを持ってもらうための研修ということでしょうか？
事務局	20年経験者研修は、マネジメントなどの研修を通して、そのような意識を高めることを目指して行っています。
委員	ICT活用について、該当者をどのように習熟度別に分けてどのように研修をしていくイメージなのでしょうか？
事務局	これまで中堅研修では、基礎的な内容を中心とした研修をおこなってきたので、スキルの高い方には少し物足りなさを感じるといった声も聞かれました。ICT活用の研修を初めて受講する人たちにとっては研修内容の評価は非常に高いので、初級者向けの研修はこれまでの流れで、上級者向けの研修については

	もう少し踏み込んでいけるように、具体的な内容については検討中ですが、自己申告制にしていこうと考えています。
委員	講義はオンラインと対面型の複合型が良いです。新型コロナウイルスの影響下でもオンライン研修ができるようになりました。学校現場にいる先生方は学校を離れて受講するのはとてもしんどいので、講義を聞くような研修についてはオンデマンドで空いている時間に見ることができるようにしていただきたいです。また、教員数が減ってきているので、各学校で各教科の先生が1人しかないとなると、他の学校の先生方と話がしたいということもあるので、交流を大事にした研修も、ぜひ行っていただきたいと思います。
委員	さきほど習熟度別に申告制という話がありましたが、受講予定者は研修をオンラインで登録できるのでしょうか？
事務局	まだそこまで話を詰めていないのですが、受講生を対象にいろいろな調査を行いますので、その時にとっています。
委員	それは紙媒体でということでしょうか？
事務局	調査の仕方については、今後は変わっていきます。公開講演についてはこれまでではFAXでの申込み、専門研修については10年以上前から使っているシステムを使って受講申込みをしていましたが、今後は管理職の承認を得たのちアンケートツールを使ってWeb申込みできるようにするなど手続きの簡素化にも努めていく予定です。
委員	オンデマンドは画面も見やすく、非常に効果的だと感じています。お願いしたいのは、初任者研修はできるだけ集合研修でやってもらいたいということです。初任者に研修を受講してもらうのには、学校を離れてリラックスしてもらうという意味合いもあります。それとともに異校種間の連携も取れるし、同じ立場で話し合えるような場を意図的に設けてもらいたいと思っています。それと、アンケートで『あまり影響がない』、『全く影響がない』という回答が増えてきているということを、教育センターではどのように捉えているのでしょうか？オンライン研修に変えてしまうという意図だけではなく、ご回答いただけたらと思います。あともう一つは、例えば法定研修を新型コロナウイルスやインフルエンザなどで欠席した場合の次年度送りのことについて、共通理解を事前に示していただいた方が良いのではということです。このことは校長会の中で出てきたお話でもあり、法定研修ではあるけれども新型コロナウイルス感染が理由であれば来年度は受講しなくていいとなると、その先生に不利益を被らないのかということです。病気の状況によって対応が異なるというのは、どうなのかなと思います。
事務局	その件につきましては、昨年度までは特に新型コロナウイルスがこういったもののなのかわからなかったことによる不安もあり、基本研修については次年度

	送りにせず、受講したものとみなすということにしていたのですが、いまは新型コロナウイルスも収束してきており、マスクの着用も緩和され、5月から第5類に変更になるということもあるので、この4月1日以降の研修からは次年度以降に全て受講していただく予定です。 アンケートで『あまり影響がない』、『全く影響がない』という回答が増えてきているということについては、オンライン研修でできることのレベルが上がってきていることだと捉えています。
委員	令和5年度の初任者研修は、対面形式を基本としているのでしょうか？
事務局	はい、オンラインに切り替えたものもありますけれども、基本は対面形式での受講となります。ただ、今後は、集合研修のよさ、オンライン研修のよさを活かした研修となるよう企画してまいります。
委員	対面形式での研修は、初任者にとっての悩みや心のケアにも効果があるのではないかと想定しています。
委員	こども園の状況ですが、初任者研修や中堅研修が集合研修だったものを、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン研修に変更していただいたのですが、職員側でのオンライン環境や受講するための部屋などの環境面が整っていません。市役所などで部屋をお借りしたり、パソコンをこども園に持ち帰って研修を受講したりしている状況ですが、職員自身がオンラインでの研修に慣れてきたので、安心して受講できたという感想や、現場を離れて研修会場に行く余裕がなかったので、オンラインで受講できて良かったという感想も出てきています。先程も集合研修とオンライン研修の良さというのがありましたが、こども園の場合はできれば中堅研修はオンラインで受講できるようにして、初任者研修では他の園の人たちとの情報交換も必要だと思うので、集合研修の良さも考慮していただきたいと思います。
委員	近頃の新任教諭の方々を見ていると、本当に元気いっぱいハツラツとした先生が、どうしてそうになってしまうのか？と思えるくらい落ち込んでしまうような事があります。校長先生や管理者の方々がものすごく気を遣っているのですが、せっかく志を持って現場に立っているのに本当にしんどそうに潰れていくのを見ていると、なんとか育てほしいと願います。生きている人間相手のお仕事なので、研修の一部の時間帯に心の面の弱さに視点を当てて、悩み相談ができるような内容があれば、他の人たちの事例を知って安心できるし、繋がりも生まれる。大変ではあるけれども、楽しんで仕事に取り組めるような先生になってほしいと願っています。
委員	教員養成課程や教育実習でも、様々な面で厳しい状況です。
委員	教育実習にしても、マスクを外して楽しそうに実習するのと、マスクを着けたまま遠慮がちに行うのとでは、教育実習の効果が違うような気がします。

委員	この2年間は、コロナ渦の中で教育実習の内容にも制限があったのですが、本年度は制限なくできました。これからそういったところのケアも必要になってくるでしょう。
----	---

③ 教育相談事業について

委員	コンサルテーションの際はいろいろと助けていただき、ありがとうございます。保護者の方々が弁護士の方を連れてきて、学校に申し立ててくるケースが増えてきています。難しい話かもしれませんが、コンサルテーションの中にスクールロイヤーのような方もいてくれると、とても助かります。保護者側からすぐ訴えるとか裁判とかという話になるので、最近とても困っています。スクールロイヤーの制度は全国的に広がってきていると思うのですが、香川県でも導入していただけるとありがたいです。
事務局	教育センター側から見て、そういった事に対してお困りであるという様子は非常に感じています。保護者の方々と良好な関係性を築きながら、どのように現状をお伝えするのか。お子さん側の不安と保護者の方々が抱えている社会面での不安などを、寄り添いながら一緒に考えて、少しでも苦しい状態を和らげていけたらと思います。
委員	中学校や高校まではスクールカウンセラーやソーシャルワーカーの方が相談員としていてくださるのですが、最近のケースだと不登校の生徒が通信制の高校へ進学となった時に、保護者の方が相談できるような場所が無いです。教育センターの存在には、本当に助かっています。ちなみに何歳くらいまで相談支援は可能なのでしょうか？
事務局	小中学生から、18歳まで支援可能です。
委員	そこから福祉関係の方々へ接続のお話もできるわけですね。
事務局	そうですね。こちらは連携というよりも、保護者の方々やご本人様と一緒に将来どのような方向に進んでいきたいかを相談していく中で、必要があれば紹介していくといった流れです。

④ カリキュラムセンター事業について

委員	令和5年度の、さぬき学びの支援隊の予算は減っているのでしょうか？
事務局	令和5年度は増やして頂きましたが、1校分位です。要望は非常に多いのですが、予算をとってもらえない。もともとは義務教育課の事業なので、教育センターでは事務業務だけを行っています。
委員	登録者数が多いのに、予算が減っているのはもったいない。
事務局	登録しているけれども派遣依頼をしたら、本人の都合で登録を抹消依頼される

	ケースもあります。登録者数については、もっと多いのですが、どんどん削ってこの数になっています。学校長さんの方で来て欲しい方を探してくださっているので、年度の途中で登録者数は増え、削除数も増え、という現状です。
委員	定年年齢の引き上げによって、少しずつ登録者数が減少する可能性もあるかもしれませんね。
事務局	再任用の方に、その穴を埋めていただけるのかな、と期待しています。